

Title	日常的コミュニケーションにおける話題の収集を目指して : テーマの重要性判断に基づく検討
Author(s)	多川, 則子; 小川, 一美; 斎藤, 和志
Citation	対人社会心理学研究. 6 P.71-P.79
Issue Date	2006
Text Version	publisher
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/3661">https://doi.org/10.18910/3661</a>
DOI	10.18910/3661
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 日常的コミュニケーションにおける話題の収集を目指して<sup>1)</sup>

## —テーマの重要性判断に基づく検討—

多川則子(名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

小川一美(愛知淑徳大学コミュニケーション学部)

齋藤和志(愛知淑徳大学コミュニケーション学部)

本研究は、日常的コミュニケーションにおけるテーマに対する重要性判断を検討した。具体的には、多様なテーマを収集し、それらがどの程度重要と判断されるのか、また、その重要性判断が性別や個人特性によって異なるのかについて検討した。大学生および短期大学生を対象に質問紙調査を実施し、487名(男性247名、女性240名)を分析対象とした。その結果、重要性判断のテーマとして「学業」、「恋愛」、「余暇」など11の側面が見出され、そのうち「学業」、「恋愛」、「家庭」、「金銭」は相対的に重要と判断され、「回避」、「社会」は重要でないと判断されていた。また、性別および個人特性としてセルフ・モニタリング、シャイネスを取り上げ、重要性判断との関連を検討した。その結果、男性は「恋愛」、「回避」、「運動」を、女性は「家庭」、「世俗」を重視し、セルフ・モニタリングの低い人やシャイネスの高い人は、全体的に重要性判断を低く評価する傾向がみられた。

キーワード: 日常的コミュニケーション、重要性判断、シャイネス、セルフ・モニタリング、話題

### 問題

#### 日常的コミュニケーションを検討する意義

親密な関係におけるコミュニケーション研究は、コミュニケーションの諸側面と対人魅力や二者間の関係性との関連を検討している。例えば、自己開示と対人関係を扱った研究などがその代表的なものであろう。自己開示(self-disclosure)という語は、Jourard, S. M. によって最初に用いられ、「他者が知覚しうるように自分自身を露わにする行為(Jourard, 1971)」と定義されている。この定義によれば、自己開示は浅い内容から深い内容までを含み、また、言語的伝達、非言語的伝達の両者を含む、かなり広い概念であると考えられる。しかし、Jourard & Lasakow(1958)や Jourard(1971)によれば、精神的に健康な人間は真実の自己を語り、それを他人に知られることを恐れないのに対して、神経症者は真実の自己を知る力をもち、またそれを他人に知らせようとする力をもちないとしており、自己開示を精神的健康の重要な指標とみなしている(加藤, 1977)。つまり、自己開示といっても、どちらかといえば、個人的で深い内容の(内面性の高い)自己開示に重きが置かれていると考えられる。

このような自己開示の定義を受けて、本邦でも加藤(1965, 1977)や飯長(1977)が青年期における自己開示を検討している<sup>2)</sup>。飯長(1977)は、Jourard(1971)を基に、自己開示を「自分についての個人的情報を、どれ位、他者に与えるか。すなわち、自分についてどれだけ他者に語るか」と定義している。加藤(1965, 1977)もほぼ同様の定義となっている。また、Jourard & Lasakow(1958)は、態度、趣味、仕事など6領域60項目からなる自己開示尺度(JSDQ)を作成している。加藤(1965)と飯長(1977)はこ

れにならない、それぞれが独自に、日本人の青年期を対象とした自己開示尺度を作成している。そして、その後もいくつかの自己開示尺度が作成されている。たとえば、加藤(1965)を参考に作成された、「困った場面」における自己開示の質問紙(久世, 1975)や、榎本(1987)の比較的深い自己開示に焦点を当てて作成された自己開示尺度(ESDQ)などである。これらの研究においても、やはり内面性の高い自己開示を重要視していると考えられる。さらに、対人関係の親密化の研究においても同様の傾向をみることができる。自己開示は、対人関係の親密化に伴って、開示される話題が広がり、その内容も内面性の低い開示から高い開示へと、次第に深くなっていくと考えられている(Altman & Taylor, 1973; Taylor & Altman, 1987)。

内面性の高い自己開示が精神的健康や、対人関係の親密化にとって重要であることに異論はない。しかし、内面性とは異なる観点に目を向ける研究者も現われはじめている。その異なる観点とは、内面性の次元でいえば、浅い次元に含まれるような日常的で些細な会話や習慣的な行動などの日常的コミュニケーションである。Duck, Rutt, Hurst, & Strejc(1991)は、これまで見過ごされがちであった日々の出来事や状況に目を向け、日常的に習慣となっているようなコミュニケーションを検討すべきだと述べている。Duck & Pittman(1994)もまた、会話や日常の習慣的な行動の重要性を強調している。さらに、Jourard(1971)のいう自己開示が、精神的健康の指標という個人特性に類した扱いがなされている点を批判し、自己開示は他者とのコミュニケーションスタイルを形作り、個人のもつ世界観を調整したりするなど、コミュニケ

ーション行動としての機能も有すると主張した。そして、このような自己開示は、日常の文脈の中でこそ捉えられるのだと述べている。先述の榎本(1987)は、深い自己開示に焦点を当てていたが、その後、改訂版では、「趣味」、「意見」、「うわさ話」といった比較的浅い項目も追加されている。これらは、自己に直接言及しないが本人のパーソナリティがうかがわれる話題であるとされており(榎本, 1997)、日常的な会話の重要性を認識していると考えられる。

実際、親密な関係において行われるコミュニケーションを考えてみると、何気ない些細なやりとりが多くの部分を含んでいることが予想できる。Goldsmith & Baxter (1996)は、大学生が普段話している話題を日誌法により検討したところ、29 のカテゴリー(発話事象)を見出し、「うわさ話」や「雑談」などの日常の何気ない会話が全会話のおよそ半分を占めていることを示した。つまり、表面的な話題が普段の会話の大半を占めているということである。このような日常的コミュニケーションは、これまで些細なやり取りだと軽視されがちであったが、その機能や役割について検討することも必要だと考えられる。

川上・川浦・古川・片山・杉森・鈴木(2002)では、人々のおしゃべりの中で「楽しさ」、「情報伝達と課題解決」、「親密になれる」、「人をコントロールする」などの、様々な効用を得ていることが示唆された。これらの効用は、自己開示のもつ効用(意義や動機)とも共通する部分がある。一般に、深い自己開示ほど効用が高いと考えられがちだが、日常の些細な事柄にも同様の効用が存在する可能性もあり、さらにはそれ独自の機能も考えられるだろう。また、多川・吉田(印刷中)は、日常の些細なコミュニケーションに着目し、恋愛関係の良好さ(相手に対する愛情)との関連を検討している。その結果、日常的コミュニケーションの中でも、「日常的な報告(毎日の出来事や周囲の状況を相手に話すこと)」、「独特な言葉遣い(関係固有の言葉を使用すること)」、「相手の対応の認知(相手の自分に対する態度を肯定的だと認知すること)」が、恋愛関係の良好さに対し影響をもつことが確認された。従来の内面性の高い自己開示だけでなく、些細な事柄も含めた日常的なコミュニケーションが、対人関係の中で果たす役割について検討する必要があるだろう。そこで本研究では、日常的コミュニケーションの検討を目指し、その前段階として、まず日常会話の話題となるものを広く収集することを目的とする。そして、それらの話題が大学生にとってどのような意味をもつのか、つまり重要と判断されるのかについて検討する。

### 「テーマ(事柄)」自体の重要性判断

大坊(1977)は、女子学生を対象に 35 項目の話題について重要度を評定させている。具体的には、興味をもつ

ているか、知識をもっているか、関わりをもっているか、強い印象を受けるか、の 4 つの観点からであった。その結果、「自己について」、「食べもの」、「友人関係」などの、自分自身の生活に密着し、日常的に経験しうる話題が、どの観点の重要度においても高く評定されていた。それに対し、「政治予算」や「宗教・信仰」などの身近ではなく具体性の低い話題の重要度は低く評定されていた。しかしながら、これらの知見は 20 年以上前のものであるため、現代の大学生に同様の傾向がみられるのかについては確認する必要がある。

ところで、大坊(1977)では、重要度を評定させるにあたり、「話題としての重要度」を測定している。しかし、「話題」という観点からでは、話す相手が誰であるかによって重要度が変化することが予想され、関係性の要因との交絡が問題となる。そこで本研究では「話題」ではなく、「テーマ(事柄)」自体の重要性判断を求める。また、テーマ自体の重要性判断を求めるのは、関係性の要因との交絡を防ぐためだけではなく、青年がどのような事柄に関心をもつのかという資料を得るためでもある。

さらに本研究では、重要性判断の様相を捉えるため、評定者の属性による違いがみられるのかについても検討する。具体的には、評定者の性別と個人特性による違いを探索的に検討する。大坊(1977)は対象が女性のみであり、性差についての知見は得られていないため、本研究において重要性判断に性差がみられるのかについて検討する。また、コミュニケーション行動に影響を与えると考えられる個人特性としては、セルフ・モニタリングと特性シャイネスを挙げることができる。セルフ・モニタリングの低い人や特性シャイネスの高い人は、全般的なコミュニケーション量が少ないことや(遠矢, 2003)、自己開示量や深さの程度が低いことなどが示されている(水野・橋本, 1993)。しかし、このような違いは、単なる行動レベルにおける違いなのではなく、テーマ自体に対し必要以上に重要度を高く見積もるといった認知レベルでの違いが生起し、その慎重な構えが行動レベルに現れている可能性も考えられる。そこで本研究では、テーマ自体に対する重要性判断という認知レベルで、セルフ・モニタリングや特性シャイネスの高さによる違いが生じるのかについても検討する。

## 方法

### 対象者と調査時期

東海地区の 5 つの大学、短大の学生 544 名に対して授業時間を利用し集団で調査を実施した。調査期間は 2004 年 12 月 17 日～2005 年 1 月 11 日であった。所要時間は 20～30 分であった。

本研究の主要尺度(次節で詳述する)である重要性判

断、改訂セルフ・モニタリング尺度、特性シャイネス尺度のうち1つでも欠損値のあった52名と、著しく回答の不備な5名を除き、男性247名、女性240名の計487名を分析対象とした。

学年構成をみると、男性は1年生が、女性は2年生がそれぞれの半数程度を占めていたが、男性の平均年齢は19.8歳( $SD=1.19$ )、女性の平均年齢は19.8歳( $SD=1.02$ )であり有意な差はみられなかった( $t(474.964) = .473, ns$ )。また、自宅からの通学者は62.0%を占め、部活・サークルに参加していない学生が43.9%、接客関係のアルバイトをしている学生が58.7%、恋人のいる学生が36.3%であった。

### 調査用紙の作成

重要性判断と個人特性を測定する2尺度(改訂セルフ・モニタリング尺度、特性シャイネス尺度)の項目から構成し、さらに、回答者の属性に関する質問も含まれていた。なお、類似した項目もあり、また項目数も多いので、重要性判断の項目について、前半63項目と後半63項目の順番を入れ替えた2種類の調査用紙を作成した。さらに、その2種類の調査用紙における改訂セルフ・モニタリング尺度と特性シャイネス尺度の実施順も入れ替えた。全体の構成は、重要性判断を最初に配置し、次に個人特性の尺度を続けた。

**重要性判断** 飯長(1977)、加藤(1977)、榎本(1997)の自己開示尺度の項目を参考にして、特に、自己開示研究で取り上げられている話題に加えて、それ以外のテーマを筆者ら3人が協議の上追加し、合計126項目を集めた。「まったく重要でない」、「かなり重要でない」、「やや重要でない」、「どちらともいえない」、「やや重要である」、「かなり重要である」、「非常に重要である」の7段階評定で回答を求めた(項目はTable 1 参照)。

**個人特性尺度** 改訂セルフ・モニタリング尺度(以下、SM尺度と略す)と特性シャイネス尺度(以下、シャイネス尺度と略す)を実施した。SM尺度はLennox & Wolfe(1984)を訳した岩淵(1996)の尺度を、岩淵・田中(1987)、石原・水野(1992)を参考に一部改訳し使用した(13項目、Appendix 1 参照)。SM尺度は、「まったくそうでない」、「ややそうでない」、「どちらかといえばそうでない」、「どちらかといえばそうである」、「ややそうである」、「非常にそうである」の6段階評定で回答を求めた。シャイネス尺度は、相川(1991)を使用し(16項目)、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」、「どちらともいえない」、「ややあてはまる」、「よくあてはまる」の5段階評定で回答を求めた。

## 結果

### 個人特性尺度について

まず、SM尺度の13項目に対して、石原・水野(1992)にならない、主因子法(バリマックス回転)による因子分析を行った。石原・水野(1992)と同様、固有値1.00以上で2因子が抽出された。第1因子は「他者の表出行動への感受性(以下、感受性と略す)」(6項目)、第2因子は「自己呈示の修正能力(以下、修正能力と略す)」(7項目)と解釈した。 $\alpha$ 係数は順に、.76と.80であった。岩淵(1996)の訳を一部改訳して用いたが、本研究でも石原・水野(1992)、岩淵(1996)と同じ因子構造が得られた。なお、「感受性」の平均値は22.30 ( $SD=4.78$ )、「修正能力」は27.16 ( $SD=4.88$ )であった。

次に、シャイネス尺度の16項目に対して、主因子解による因子分析を行った。相川(1991)と同様、固有値1.00以上で2因子が抽出されたが、寄与率が第1因子で41.30、第2因子で7.89であったことなどから、1因子構造を採用し、分析には16項目の合成得点を用いた。 $\alpha$ 係数は.91であり、平均値は47.52 ( $SD=11.56$ )であった。

SM尺度とシャイネス尺度間の関連をみるために、相関係数を算出したところ、「感受性」と「修正能力」では $r = .46$ 、「感受性」と「シャイネス」では $r = -.26$ 、「修正能力」と「シャイネス」では $r = -.42$ となり、いずれも1%水準で有意な相関がみられた。つまり、他者の表出行動への感受性が高い人は自己呈示の修正能力も高く、また、特性シャイネスが高い人は、他者の表出行動への感受性も自己呈示の修正能力も低いことが示された。

### テーマ自体の重要性判断について

まず、重要性判断の項目毎の傾向をみた(Table 1)。最も高い値を示したのは「今後の進路」の6.13 ( $SD=1.07$ )であり、天井効果がみられた。また、最も低い値を示したのは「宗教活動の経験」の2.37 ( $SD=1.55$ )であった。7段階評定の midpoint 4 以下を示した項目は、126項目中17項目であった。ほとんどの項目が midpoint 以上の、どちらかといえば重要だという評定であった。性差がみられた項目は、126項目中44項目であった。そのうち27項目は女性の方が男性よりも高い値を示していた。

次に、重要性判断の126項目について主因子法(プロマックス回転)による因子分析を行った。固有値の減衰状況から11因子を抽出した。因子負荷が.35以上、他の因子への負荷が.30以下を基準とし、項目を選択した。各因子の構成、 $\alpha$ 係数をTable 1に示した。各因子に採用された項目内容を基に、因子名を付けた。F1は「学業」、F2は「恋愛」、F3は「余暇」、F4は「世俗」、F5は「悩み」、F6は「社会」、F7は「回避」、F8は「運動」、F9は「家庭」、F10は「金銭」、F11は「趣味」と命名した。ただし、F7の項目は、宗教活動、親の職業、支持する政党などとなり、項目内容のみからの命名が困難であったため、

Table 1 重要性判断の因子分析結果と平均値

因子名	項目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	M (SD)	順位 <sup>a)</sup>
F1 学業	大学の授業	.78	.01	-.08	.06	.08	.05	-.13	.07	-.07	-.18	-.02	4.69 (1.29)	75
	勉強の目標	.72	-.10	.23	-.09	.07	-.08	.01	.02	-.07	.04	.02	5.00 (1.28)	46
	勉強に対する満足感	.66	.00	.11	-.10	.00	.06	.07	-.04	.09	-.11	-.06	4.70 (1.37)	74
	授業の課題	.65	.08	-.03	.06	.12	.11	-.08	-.19	-.27	.08	-.07	5.12 (1.21)	35
	自分の大学	.63	.15	-.14	-.01	-.07	-.13	.08	.09	.03	.03	.06	4.68 (1.30)	76
	自分が専攻している学問	.55	-.04	.01	-.06	.15	-.11	-.07	.12	-.02	-.21	.12	5.08 (1.34)	40
	大学のテスト	.52	.12	-.10	-.05	.10	.04	-.07	-.12	-.14	.06	.03	5.56 (1.33)	11
	自分の大学の評判	.51	.04	-.26	.18	-.02	-.01	.11	.06	.11	.09	.00	4.32 (1.51)	97
	大学の先生	.45	.06	-.08	.09	-.13	.21	.09	.01	.14	-.21	-.03	4.30 (1.42)	99
	自分の教養	.44	.04	.22	-.09	-.03	.04	.16	.01	.07	-.01	.05	5.17 (1.17)	33
	これまでの進路選択	.43	-.02	.06	-.09	.08	-.11	-.07	.09	.12	.19	.02	5.21 (1.30)	29
今後の進路	.42	.02	.05	-.16	.10	.00	-.06	.11	-.04	.13	-.03	6.13 (1.07)	1	
F2 恋愛	恋愛に関する悩み	.05	.67	.01	.07	.22	.11	-.01	-.14	-.07	-.03	-.04	5.10 (1.23)	37
	関心のある異性についてのうわさ	.06	.59	-.07	.12	.16	-.08	-.03	.00	-.08	.02	-.01	5.38 (1.18)	20
	異性の好み	.12	.58	.05	.17	-.12	.00	-.04	-.03	-.10	-.01	.12	4.96 (1.19)	50
	結婚前の性行動	.04	.57	-.10	-.02	.05	-.02	.23	.15	-.20	-.04	.02	4.40 (1.30)	94
	友人(異性)との遊び	-.06	.55	.20	.01	-.01	-.07	-.01	.16	-.12	-.06	.13	5.10 (1.25)	38
	異性を好きになった経験	-.13	.55	.19	-.09	.02	.07	.11	.18	-.05	-.10	-.01	5.15 (1.35)	34
	恋人の性格	.04	.52	.06	-.03	-.19	.02	-.07	-.06	.12	.05	.26	5.73 (1.10)	6
	恋人に対する不満	-.02	.52	-.04	-.04	.12	.09	.16	-.14	-.06	.05	.09	4.67 (1.19)	79
	恋人の浮気	-.05	.48	-.20	-.06	.16	.13	-.01	-.04	-.05	.05	.10	5.49 (1.59)	12
	自分の性経験	-.01	.46	.05	-.09	.02	-.10	.29	.16	-.22	.16	-.03	4.29 (1.35)	100
	友人(異性)の性格	.01	.38	-.06	.10	.09	.08	-.06	.08	.19	-.27	.18	5.11 (1.23)	36
友人(異性)の魅力	-.02	.38	.09	.04	.11	.03	.02	.14	.07	-.02	.24	5.05 (1.21)	43	
F3 余暇	暇な時にすること	-.06	-.07	.69	.01	.16	-.09	.01	-.19	.00	-.03	.02	4.89 (1.40)	57
	休日の過ごし方	-.05	.03	.63	-.07	-.08	-.07	-.05	-.02	.07	.06	.07	5.35 (1.28)	22
	家での過ごし方	.05	-.02	.55	.01	-.14	-.05	.08	-.12	.11	-.04	.07	4.79 (1.28)	66
	遊びの計画	-.07	.08	.51	.08	.13	-.17	-.19	-.07	-.03	.20	.09	5.29 (1.15)	24
	授業後の予定	-.17	-.16	.43	.05	.28	-.15	.09	.10	.01	.12	-.01	4.76 (1.25)	71
	自分の思想や主義	.18	.13	.42	-.15	-.08	-.05	.19	.02	.01	-.06	.03	4.90 (1.28)	56
	自分の部屋	.02	.00	.41	.00	-.10	.01	.08	-.09	.15	.06	-.02	5.01 (1.45)	45
	音楽の好み	-.02	.01	.40	.19	.01	-.06	-.04	.03	-.13	.05	.19	4.93 (1.29)	54
F4 世俗	芸能界に関するうわさ	-.08	.04	-.13	.59	.11	.03	.08	.05	.01	.10	-.10	3.25 (1.48)	122
	芸能人の好み	-.07	.15	-.08	.58	-.06	.06	.15	.06	-.04	-.11	.07	3.30 (1.55)	121
	テレビ番組の好み	.08	.00	.07	.56	-.04	.16	-.04	-.02	-.05	.03	.05	4.17 (1.50)	104
	占いや運勢	-.01	.07	-.01	.55	.11	-.03	-.01	-.03	.00	.09	-.08	3.72 (1.66)	116
	血液型	-.09	.12	-.07	.45	-.06	.07	.14	.09	.03	.07	-.08	3.94 (1.72)	112
	食べ物の好み	.01	-.02	.28	.41	-.13	.09	.01	.15	-.04	.04	.06	4.61 (1.47)	83
	飲み物の好み	.11	-.01	.22	.36	-.18	.23	.07	.06	-.23	.10	.16	4.00 (1.49)	110
F5 悩み	大学の仲間とのめんどろ	.13	.01	-.07	-.03	.74	-.09	-.01	.11	-.09	-.03	-.01	4.72 (1.39)	73
	クラブ・サークルでのめんどろ	.25	.03	-.12	-.06	.52	.03	-.03	.26	-.17	-.04	-.09	4.29 (1.52)	101
	現在抱えている不安	.12	.19	.09	-.02	.51	.16	.00	-.24	.01	.10	-.16	5.39 (1.30)	18
	友人(同性)に関する悩み	.07	.08	.03	.00	.47	.10	-.06	.00	.12	.04	-.07	4.92 (1.25)	55
	自分の短所	.09	.14	-.02	-.12	.38	.22	-.09	.06	.02	.15	-.12	5.26 (1.32)	27
	友人(異性)に関するうわさ	.04	.29	-.04	.25	.37	-.24	.18	-.04	.09	-.10	.17	4.26 (1.36)	102
F6 社会	通学にかかる交通費	-.03	.11	-.24	.05	-.13	.52	-.01	-.17	.05	.20	.13	4.96 (1.61)	51
	今の政治	.02	-.06	-.07	-.12	-.05	.50	.25	.04	.17	.08	.01	4.09 (1.70)	106
	性差別問題	-.02	-.04	-.02	.08	.03	.47	-.03	.08	.14	.05	.04	4.80 (1.32)	65
	公共交通機関の料金	-.01	-.01	.03	.18	.02	.47	.10	-.17	.00	.09	.07	4.85 (1.55)	60
	若者の性の乱れ	.05	.21	-.18	.00	.01	.43	.16	.05	.13	-.01	.05	4.33 (1.36)	96
	現在の社会に対する不満	.01	-.06	.02	.00	.07	.42	.21	.00	.19	.08	.04	4.37 (1.42)	95
	教育問題	.20	-.09	-.06	-.03	.07	.39	.09	.12	.18	-.11	-.02	4.58 (1.38)	86
	最近の大きな事件	.15	.05	.01	.05	.18	.39	.07	-.10	-.02	.12	-.03	4.77 (1.29)	67
	家の近所での出来事	.06	.00	-.03	.17	.04	.37	.23	-.10	.19	-.11	.02	3.88 (1.43)	113
F7 回避	宗教活動の経験	.05	-.02	-.02	.11	.05	.14	.44	-.03	.07	-.18	-.07	2.37 (1.55)	126
	親の職業	.18	.04	-.02	.11	-.14	-.05	.44	.00	.25	.12	.04	3.95 (1.50)	111
	友人(同性)の家庭環境	.03	.07	.01	-.02	-.04	.05	.44	-.02	.12	.00	.22	3.76 (1.36)	114
	最近の性風俗産業	-.16	.22	-.05	.09	.01	-.01	.41	.21	.01	-.11	-.10	3.20 (1.46)	123
	支持する政党	.10	-.08	.00	.07	-.05	.26	.38	.04	.05	-.09	-.07	2.75 (1.51)	125

Table 1 重要性判断の因子分析結果と平均値(続き)

因子名	項目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	M	(SD)	順位 <sup>a)</sup>
F8	スポーツの経験	.01	-.02	-.08	.12	.06	-.10	.09	.76	.08	-.04	-.03	4.77	(1.58)	68
運動	自分の運動能力	.06	.05	-.11	-.04	-.01	-.04	-.02	.72	.02	.15	.06	4.94	(1.34)	52
	スポーツの好み	.10	.09	.00	.24	-.05	.00	-.06	.69	-.18	-.14	.12	4.54	(1.45)	89
	自分の家族関係	-.03	-.14	.08	-.08	.01	.11	.10	-.04	.78	-.18	.02	5.29	(1.30)	25
家庭	親子関係のあり方	.08	.04	.12	-.08	-.06	.14	.06	-.12	.75	-.17	-.02	5.42	(1.25)	16
	自分の育った環境	-.15	-.14	.10	-.08	.02	.18	.15	.61	.07	-.08	-.08	5.25	(1.34)	28
	家庭内での出来事	.05	-.13	.03	.08	.09	.22	.13	-.04	.57	-.08	.00	4.93	(1.27)	53
	友人(同性)の性格	.05	.04	.03	.09	.28	.10	-.07	-.04	.38	-.08	.11	5.21	(1.20)	30
	自分の出身地	-.15	-.16	-.03	.18	-.06	.08	.23	.27	.36	.09	-.13	4.04	(1.73)	108
F10	自分の収入	-.01	.00	.05	-.06	.01	.17	-.05	.08	-.15	.70	.02	5.58	(1.26)	10
金銭	自分の貯金額	.00	-.04	.09	.08	.00	.19	.10	-.11	-.15	.54	.02	5.06	(1.51)	41
	アルバイトに関する情報	.03	-.04	.00	.12	.14	.09	.01	.02	-.10	.36	.07	4.66	(1.35)	80
F11	友人(異性)の趣味	.00	.21	.09	.06	-.04	.08	.05	.03	.01	-.14	.62	4.65	(1.23)	81
趣味	友人(同性)の趣味	.07	-.07	.21	.06	-.01	.15	-.01	-.01	-.03	-.03	.57	4.77	(1.20)	69
残余項目	友人関係のあり方	.08	.15	.14	-.09	.17	.04	-.24	.01	.29	.03	.02	5.87	(0.99)	2
	楽しかった思い出	-.05	.11	.29	.07	.09	.04	-.11	.17	.22	-.01	-.08	5.80	(1.21)	3
	自分の健康状態	.19	.06	.08	-.16	-.09	.19	-.09	.13	.29	.07	.06	5.79	(1.15)	4
	将来の希望	.27	.05	.22	-.13	.07	-.07	-.19	.13	.15	.08	.07	5.74	(1.12)	5
	友人(同性)との遊び	-.22	-.16	.23	.07	.16	.00	-.18	.27	.27	.18	.03	5.64	(1.11)	7
	携帯電話	-.13	.12	-.20	.19	.09	.18	-.21	.15	.09	.34	.03	5.61	(1.39)	8
	自分の性格に影響を与えた出来事	.13	.17	.18	-.03	.22	.07	-.03	.00	.13	.04	-.14	5.58	(1.24)	9
	最近のうれしい出来事	.05	.34	.37	.12	-.05	.08	-.06	.04	.08	-.17	-.05	5.48	(1.21)	13
	自分の趣味	.09	-.03	.46	-.20	-.13	-.03	.01	.02	-.03	.10	.42	5.45	(1.13)	14
	インターネット	.04	-.06	.09	.07	-.06	.30	-.14	-.03	.14	.03	.20	5.44	(1.22)	15
	1ヶ月の出費	-.11	-.02	.06	-.04	.17	.39	-.04	.01	-.21	.51	.12	5.41	(1.26)	17
	笑える話	-.14	.08	.32	.17	.09	.04	-.06	.03	.12	-.08	.02	5.39	(1.17)	19
	自分の長所	.12	.13	.22	-.18	.03	-.01	-.04	.27	.10	.10	.06	5.37	(1.13)	21
	自分の理想とする人物	.07	.26	.23	-.12	.03	.14	.04	.06	.01	.14	-.04	5.33	(1.24)	23
	授業関係の連絡事項	.32	-.03	-.03	.13	.09	.22	-.14	-.09	.10	.02	.08	5.27	(1.23)	26
	恋人の趣味	-.07	.40	-.01	-.10	-.08	.14	.04	.03	-.12	.18	.50	5.21	(1.15)	31
	ファッション	-.02	.30	.12	.21	-.08	-.15	-.07	-.04	.17	.28	-.17	5.20	(1.32)	32
	つらかった思い出	-.03	.16	.13	-.07	.26	.20	.21	-.02	.17	-.06	-.12	5.08	(1.44)	39
	ヘアスタイル	-.01	.24	.12	.18	-.09	.01	-.10	-.09	.07	.35	-.18	5.05	(1.17)	42
	持っている資格	.34	-.01	-.16	.01	-.05	.10	.03	.25	.07	.28	-.02	5.02	(1.28)	44
	友人(異性)に関する悩み	-.17	.32	.18	-.09	.42	-.06	.10	.10	-.01	-.04	.12	5.00	(1.21)	47
	友人(同性)の魅力	-.05	.21	.26	.08	.10	.14	-.02	-.09	.23	-.06	.11	4.99	(1.15)	48
	自分の容姿に対する評価	.09	.40	.04	.11	-.15	-.19	-.01	-.07	.18	.34	-.16	4.98	(1.30)	49
	自分の顔に対する評価	.17	.45	.05	.12	-.12	-.21	-.07	-.09	.04	.36	-.20	4.87	(1.26)	58
	アミューズメントスポット	-.04	.28	.04	.33	.01	-.03	-.17	.19	-.05	-.10	.07	4.87	(1.27)	59
	同世代の人たちの考えや行動	-.08	.01	-.06	.03	.26	.23	.01	.12	.09	.18	-.07	4.83	(1.22)	61
	自分の結婚観	.08	.32	.11	.03	-.06	.18	.16	-.07	.00	.04	-.01	4.83	(1.34)	62
	自分の理想とする社会	.03	-.03	.09	-.09	.02	.33	.10	.14	.09	.14	.18	4.83	(1.23)	63
	自分の特技	.25	.01	.31	-.20	-.02	-.15	.14	.27	.02	-.05	.07	4.82	(1.18)	64
	自分の大学内の情報	.34	-.12	-.09	.12	.23	.05	.02	.22	-.04	.16	.09	4.76	(1.27)	70
	クラブ・サークルの経験	.07	-.03	.01	-.06	.30	-.10	-.02	.54	.02	-.05	-.13	4.74	(1.58)	72
	旅行の経験	-.11	-.03	.24	.13	-.09	.06	.20	.23	.08	.08	-.05	4.68	(1.57)	77
	よく行く店	-.05	-.01	.31	.23	.02	.05	.02	-.06	-.06	.08	.21	4.68	(1.13)	78
勉強に関する悩み	.49	-.09	-.02	-.03	.37	.05	.07	-.06	.02	.03	-.06	4.63	(1.27)	82	
アルバイト先での出来事	.04	.08	.11	.00	.20	.20	.01	-.05	-.07	.18	-.04	4.60	(1.34)	84	
本や雑誌に書いてある情報	.04	.13	.01	.29	.07	.04	-.05	-.11	.00	.14	.12	4.60	(1.22)	85	
自分の学歴	.51	-.06	-.11	.09	-.04	-.01	.14	.07	.03	.31	-.09	4.57	(1.37)	87	
既婚者の浮気	-.04	.24	-.23	.01	.27	.10	.13	.10	.02	-.08	.05	4.54	(1.69)	88	
ペット	-.20	.04	.13	.18	-.17	.29	-.03	.04	.07	.14	-.04	4.51	(1.74)	90	
恋人の家庭環境	-.02	.14	-.10	-.04	.04	.06	.38	-.10	.16	.24	.31	4.47	(1.52)	91	
映画の好み	.01	-.13	.14	.37	.04	.22	-.09	.09	-.25	.31	-.02	4.43	(1.29)	92	
同じ学科(コース)の人	.32	-.14	.03	.14	.27	-.14	-.01	.08	.11	.00	.08	4.43	(1.50)	93	
嫉妬した経験	-.04	.30	.19	.05	.23	.02	.32	-.02	-.16	.07	-.16	4.30	(1.39)	98	
友人(同性)に関するうわさ	.03	.00	-.02	.35	.53	-.15	.08	-.12	.11	-.07	.12	4.21	(1.33)	103	
大学での昼食	.08	-.13	.21	.32	.23	-.17	.14	.04	.12	-.19	.01	4.15	(1.48)	105	

Table 1 重要性判断の因子分析結果と平均値(続き)

因子名	項目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	M	(SD)	順位 <sup>a)</sup>	
残余項目	友人(異性)の家庭環境	-.13	.09	-.01	-.08	.16	-.02	.51	-.05	.10	.14	.38	4.07	(1.40)	107	
	親への不満	.06	.01	.03	.12	.22	.05	.16	-.10	.01	.16	.05	4.01	(1.40)	109	
	文学の好み	.25	-.22	.18	.34	-.05	.10	.22	.08	-.08	.07	.07	3.73	(1.39)	115	
	コンパ	-.08	.29	-.05	.26	.07	-.20	.16	.30	-.11	-.02	-.02	3.59	(1.60)	117	
	借金の経験	-.06	.03	-.10	-.07	.20	.17	.28	-.06	-.08	.13	.08	3.42	(1.80)	118	
	スポーツ選手の好み	.08	-.01	-.21	.39	-.03	.15	.06	.45	-.17	.04	-.01	3.40	(1.44)	119	
	美術の好み	.14	-.01	.37	.15	-.13	.15	.35	-.16	-.14	.05	.03	3.37	(1.51)	120	
	夜に見た夢	-.07	-.14	.24	.36	.04	-.05	.34	.08	.07	-.04	-.06	3.12	(1.47)	124	
因子間相関係数 (a係数)	F1_学業	(.86)	.19	.33	.06	.25	.40	.23	.31	.37	.27	.19				
	F2_恋愛		(.85)	.40	.24	.39	.09	.01	.33	.49	.49	.23				
	F3_余暇			(.74)	.16	.32	.45	.04	.50	.39	.31	.23				
	F4_世俗				(.77)	.17	.04	.08	.10	.24	.24	.21				
	F5_悩み					(.76)	.29	.07	.22	.49	.29	.31				
	F6_社会						(.78)	.12	.29	.18	.05	.14				
	F7_回避							(.60)	.15	.08	.06	.05				
	F8_運動									(.81)	.34	.24	.29			
	F9_家庭										(.78)	.51	.27			
	F10_金銭											(.62)	.24			
	F11_趣味												(.85)			

註 n = 487.

a) 平均値を上位から順位付けた。

これらの項目を大学生がどう捉えているのかという解釈を含んだ命名を行った。現代の大学生が深く考えることを回避するような内容であると解釈し「回避」と名付けた。「回避」に含まれる各項目の平均値(Table 1)をみても、すべての項目が126項目中111位から126位(下位15%以内)に位置し、重要度は低く評定されていた。Table 1の因子の構成に従い、尺度得点を算出した(Table 2)。平均値をみると、「学業」、「恋愛」、「家庭」、「金銭」が相対的に高く評定されており、「世俗」と「回避」が低く評定されていた。

### 個人特性と重要性判断の関係

各個人特性と重要性判断の各下位尺度間の関連を検討するため、相関係数を算出した(Table 2)。その結果、「感受性」は「余暇」および「家庭」との間に有意な正の相関がみられた(両者ともに  $r = .09, p < .05$ )。つまり、他者の表出行動への感受性が高い人ほど、余暇や家庭に関する事柄を重要であると感じていた。また、「修正能力」は「余暇」と有意な正の相関が確認され( $r = .15, p < .001$ )、自己呈示の修正能力が高い人ほど、余暇に関する事柄

を重要だと判断していた。一方、「シャイネス」は「恋愛」、「余暇」、「運動」と有意な負の相関がみられ(順に  $r = -.09, p < .05; r = -.10, p < .05; r = -.15, p < .001$ )、特性シャイネスが高い人は、恋愛、余暇、運動に関する事柄を重要でないと判断していた。しかしながら、いずれも弱い相関であった。

### 個人特性および性別と重要性判断との関連

さらに、個人特性と性別が重要性判断とどのような関連があるのかについて検討するため、重要性判断の各下位尺度を従属変数とした、各個人特性と性別による2要因分散分析を行った。各個人特性は、合計得点をもとに調査対象者を低群、中群、高群の3群に分けた。この分析の主な目的は、低SMや高シャイネスの人が必要以上に重要性判断を高く評定する傾向がみられるのかを確認することと、性差について探索的に検討することであった。

まず、「感受性」と性別による分析では、「金銭」について、「感受性」と性別の交互作用効果が示された( $F(2,481) = 4.398, p < .05$ )。単純主効果検定(Bonferroni,

Table 2 重要性判断の下位尺度の平均値と個人特性との相関係数

	重要性判断											
	学業	恋愛	余暇	世俗	悩み	社会	回避	運動	家庭	金銭	趣味	
M	5.00	5.04	4.99	3.85	4.81	4.51	3.21	4.75	5.02	5.10	4.71	
(SD)	(.81)	(.78)	(.77)	(1.01)	(.92)	(.88)	(.92)	(1.24)	(.94)	(1.04)	(1.13)	
相関係数	感受性	.01	.05	.09 *	.09	-.02	.03	.03	.06	.09 *	.05	.02
	修正能力	.01	.06	.15 ***	-.05	-.06	-.02	-.04	.06	.00	.07	-.02
	シャイネス	.00	-.09 *	-.10 *	.01	.08	.05	-.04	-.15 ***	-.05	.02	.02

註1 \*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$ .

註2 n = 487.

$p < .05$ の結果、感受性高群において女性( $M = 5.36$ ,  $SD = 1.08$ )の方が男性( $M = 4.91$ ,  $SD = 1.22$ )よりも「金銭」を重視していた。また、「感受性」の主効果はいずれも有意ではなかった。そして、性別の主効果は、「恋愛」、「世俗」、「回避」、「運動」、「家庭」においてみられたが、以降の「修正能力」と「シャイネス」の分析と結果が重複するため、本節の最後でまとめて記述する。

続いて、「修正能力」と性別による分析では、「余暇」について、「修正能力」の主効果がみられた( $F(2,481) = 5.347$ ,  $p < .01$ )。多重比較(Tukey,  $p < .05$ )の結果、修正能力低群( $M = 4.86$ ,  $SD = .79$ )が高群( $M = 5.13$ ,  $SD = .80$ )よりも余暇を重視していなかった(なお、中群は  $M = 4.98$ ,  $SD = .72$ )。また、「世俗」について、「修正能力」と性別の交互作用効果が示された( $F(2,481) = 4.533$ ,  $p < .05$ )。単純主効果検定(Bonferroni,  $p < .05$ )の結果、修正能力高群と低群において、女性(高群  $M = 3.91$ ,  $SD = .98$ ; 低群  $M = 4.39$ ,  $SD = .88$ )の方が男性(高群  $M = 3.56$ ,  $SD = 1.05$ ; 低群  $M = 3.56$ ,  $SD = .97$ )よりも世俗を重視しており、さらに、女性では修正能力低群が、高群および中群( $M = 3.99$ ,  $SD = .95$ )よりも世俗を重視する傾向がみられた。

そして、「シャイネス」と性別による分析では、「運動」について、「シャイネス」の主効果がみられた( $F(2,481) = 4.730$ ,  $p < .01$ )。多重比較(Tukey,  $p < .05$ )の結果、シャイネス高群( $M = 4.60$ ,  $SD = 1.24$ )および中群( $M = 4.66$ ,  $SD = 1.16$ )が低群( $M = 4.99$ ,  $SD = 1.28$ )よりも運動を重視していないことがわかった。

「感受性」、「修正能力」、「シャイネス」のいずれの分析においても、「恋愛( $p < .05$ )」、「世俗( $p < .001$ )」、「回避( $p < .05$ )」、「運動( $p < .001$ )」、「家庭( $p < .05$ )」について、性別の主効果がみられた。「恋愛」は男性が  $M = 5.13$  ( $SD = .78$ )、女性が  $M = 4.94$  ( $SD = .77$ )であり、「世俗」は男性が  $M = 3.63$  ( $SD = 1.00$ )、女性が  $M = 4.09$  ( $SD = .96$ )であり、「回避」は男性が  $M = 3.28$  ( $SD = .89$ )、女性が  $M = 3.13$  ( $SD = .95$ )であり、「運動」は男性が  $M = 5.03$  ( $SD = 1.22$ )、女性が  $M = 4.46$  ( $SD = 1.19$ )であり、「家庭」は男性が  $M = 4.92$  ( $SD = 1.01$ )、女性が  $M = 5.13$  ( $SD = .85$ )であった。まとめると、男性の方が「恋愛」、「回避」、「運動」の重要度を有意に高く評定し、女性の方が「世俗」と「家庭」の重要度を有意に高く評定していたといえる。

## 考察

本研究には、主に2つの目的があった。1つは、日常会話の話題となりそうなテーマを広く収集し、それらのテーマが大学生にとってどの程度重要と判断されるのかについて検討することであった。もう1つは、重要性判断の

様相を捉えるため、評定者の属性による違いがみられるのかについて検討することであった。具体的には、個人特性(セルフ・モニタリングと特性シャイネス)と評定者の性別が、重要性判断とどのような関連がみられるのかについて検討することであった。

1つ目の目的に関して、本研究では、飯長(1977)、加藤(1977)、榎本(1997)の自己開示尺度の項目を参考に126項目を作成したが、得られた結果を因子分析したところ11の側面が見出された。Table 2の各下位尺度の平均値をみると、「学業」、「恋愛」、「家庭」、「金銭」の重要度が相対的に高く評定されており、「世俗」と「回避」の重要度が低く評定されていた。これは、大坊(1977)の生活に密着した日常的なテーマの重要度が高く、身近ではなく具体性の低いテーマの重要度が低いという結果に対応するものと考えられる。大坊(1977)は20年以上前の研究であるが、重要性判断においては、現代の大学生も類似の傾向があるといえよう。今回の結果について留意すべきと思われる点は、11の側面として採用されなかった残余項目(53項目)の中には、重要性判断の上位10位までの項目のうち7項目が含まれていることである(Table 1)。具体的には、「友人関係のあり方」、「楽しかった思い出」、「自分の健康状態」、「将来の希望」、「友人(同性)との遊び」、「携帯電話」、「自分の性格に影響を与えた出来事」の7項目であった。これらの中には、適切な項目を追加すれば因子としてのまとまりがみられる可能性もあり、また、携帯電話などは現代の大学生に特徴的な事柄だといえる。今後、日常会話の研究へと発展させていく上で、これらの項目の扱いについても考慮に入れる必要があるだろう。

2つ目の目的の個人特性と重要性判断の関連については、低SMや高シャイネスの人は、行動レベルでは消極的な姿勢を示すとされているため、それらの人は認知レベルにおいて必要以上に事柄を重要視しており、その慎重な構えが行動レベルに現れているのではないかと予測していた。しかし、全般的には逆の傾向が示され、修正能力が低い人は高い人よりも余暇を重視せず、高・中シャイネスの人は低シャイネスの人よりも運動を重視していなかった。つまり、低SMや高シャイネスの人の方が、重要性判断を低く評定していたということである。これらの特性の人はそうでない人に比べて、様々な事柄に対する重要性を高く認知してしまうと、不安や葛藤状態に陥ってしまうことも推測できる。そのため、不安や葛藤状態に陥ってしまわないための適応メカニズムの1つの現れとして、事柄に対する重要性判断が低くなっているということも考えられる。ただし、世俗についての修正能力と性別の分析結果においては、一部予測を支持する方向での結果が得られている。この分析では、修正能力の高群



と低群においては、女性の方が男性よりも世俗を重視し、さらに女性の中では、修正能力が低い人の方が高い人や中程度の人よりも世俗を重視するという交互作用効果が確認された。

また、いくつかの性別の主効果も確認された。男性の方が「恋愛」、「回避」、「運動」の重要度を有意に高く評定し、女性の方が「世俗」と「家庭」の重要度を有意に高く評定していた。男性が「運動」を、女性が「家庭」を重視する傾向は伝統的な性役割を反映したものかもしれない。「世俗」は、項目内容を見ると、うわさや何かの好みなど、まさに些細な日常の事柄で構成されている。重要性自体は相対的に低いものの、「おしゃべりのネタ」として男性よりも女性にとって重要な位置づけとなっている可能性がある。女性にとって世俗という事柄は何か特別な意味を持ち、それゆえに世俗以外の他の事柄とは異なる傾向が示された可能性も考えられる。ただし、世俗については修正能力と性別の交互作用もみられており、今後さらに検討する必要があるだろう。

本研究では、日常会話の話題となりうるテーマを収集し、その大まかな傾向を知ることが目的であった。テーマの重要性判断の得点などは、自己開示や会話に関する多様な研究において、資料的価値が見出されるのではないかと期待している。さらに、今後は、話題としての重要性という観点をより明確にするために、個人特性や性別に加えて、話し手同士の関係性や状況などの要因も検討していく必要があると考えられる。さらに、日常的なコミュニケーション行動とその効用について、因果の方向を考慮しながら検討していきたい。

## 引用文献

- 相川 充 1991 特性シャイネス尺度の作成および信頼性と妥当性の検討に関する研究 心理学研究, 62, 149-155.
- Altman, I. & Taylor, D. A. 1973 *Social penetration: The development of interpersonal relationships*. New York: Holt, Rinehart and Winston.
- 大坊郁夫 1977 話題の重要度評定とその因子構造 札幌医科大学医学進学課程紀要, 18, 1-12.
- Duck, S. & Pittman, G. 1994 Social and personal relationships. In M. L. Knapp & G. R. Miller (Eds.), *Handbook of interpersonal communication* (2nd ed., pp. 676-695). Thousand Oaks, CA: Sage.
- Duck, S., Rutt, D. J., Hurst, M. H., & Strejcek, H. 1991 Some evident truths about conversations in everyday relationships: All communications are not created equal. *Human Communication Research*, 18, 228-267.
- 榎本博明 1987 青年期(大学生)における自己開示性とその性差について 心理学研究, 58, 91-97.
- 榎本博明 1997 自己開示の心理学的研究 北大路書房
- Goldsmith, D. J. & Baxter, L. A. 1996 Constituting relationships in talk: A taxonomy of speech events in social and personal relationships. *Human Communication Research*, 23, 87-114.
- 飯長喜一郎 1977 グループ合宿における自己開放性 東京大学教育学部紀要, 17, 77-84.
- 石原俊一・水野邦夫 1992 改訂セルフ・モニタリング尺度の検討 心理学研究, 63, 47-50.
- 岩淵千明 1996 自己表現とパーソナリティ 大淵憲一・堀毛一也(編) パーソナリティと対人行動 対人行動学研究シリーズ 5 (pp.53-75) 誠信書房
- 岩淵千明・田中国夫 1987 セルフ・モニタリング尺度改訂版への試み 日本社会心理学会第28回大会発表論文集, 67.
- Jourard, S. M. 1971 *The transparent self* (2nd ed.). New York: Van Nostrand. (岡堂哲雄 訳 1974 透明なる自己 誠信書房)
- Jourard, S. M. & Lasakow, P. 1958 Some factors in self-disclosure. *Journal of Abnormal & Social Psychology*, 56, 91-98.
- 加藤隆勝 1965 中学生における自己の閉鎖性と開放性 岐阜大学研究報告(人文科学), 14, 54-61.
- 加藤隆勝 1977 青年期における自己意識の構造 心理学モノグラフ 14 日本心理学会
- 川上善郎・川浦康至・古川良治・片山美由紀・杉森伸吉・鈴木靖子 2002 社会的現実形成にかかわる—ニュースメディアの可能性と限界—平成 12-13 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)・研究成果報告書
- 久世敏雄 1975 青年期の自己開放性に関する一検討 名古屋大学教育学部紀要, 22, 1-11.
- Lennox, R. D. & Wolfe, R. N. 1984 Revision of the self-monitoring scale. *Journal of Personality and Social Psychology*, 46, 1349-1364.
- 水野邦夫・橋本 幸 1993 対人関係の形成におけるセルフ・モニタリング諸特性の特徴について—友人・恋愛関係をもとに— 同志社心理, 40, 17-26.
- 多川則子・吉田俊和 2006 日常的コミュニケーションが恋愛関係に及ぼす影響 社会心理学研究, 22(印刷中).
- Taylor, D. A. & Altman, I. 1987 Communication in interpersonal relationships: Social penetration processes. In M. E. Roloff & G. R. Miller (Eds.), *Interpersonal processes: New directions in communication research. Sage annual reviews of communication research: Vol. 14* (pp. 257-277). CA: Sage.
- 遠矢幸子 2003 友人関係の親密性コントロールに関わるストラテジー—セルフモニタリング傾向との関連について— 香蘭女子短期大学研究紀要, 46, 201-206.

## 註

- 1) 本研究は、日本社会心理学会第46回大会にて発表したものを再分析し、修正・加筆した。
- 2) 加藤(1965, 1977)、飯長(1977)、久世(1975)では、self-disclosureを自己開示ではなく、自己開放性と呼んでいる。

## 謝辞

本論文の英文Abstractについてコメントを下さいました名古屋大学の高井次郎先生、ならびに調査実施にご協力いただきました名古屋大学の布施光代さん、吉澤寛之さんに、深く感謝申し上げます。

## Identifying common topics in daily communication by saliency

Noriko TAGAWA (*Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University*)

Kazumi OGAWA (*Faculty of Communication Studies, Aichi Shukutoku University*)

Kazushi SAITO (*Faculty of Communication Studies, Aichi Shukutoku University*)

The present study examined the saliency rating of themes dealing with daily communication. An extensive collection of themes was gathered, and participants were asked to rate their saliency, examining differences between gender, and other individual traits. A questionnaire survey was conducted, and valid responses were collected from 487 university and junior college students (247 males and 240 females). The results identified 11 salient aspects of daily communication, of which “academics”, “romance”, “family”, and “money” were rated highly, while “avoidance” and “society” were rated low. Furthermore, the effects of gender, self-monitoring, and shyness on the saliency ratings were examined. With gender, males rated “romance”, “avoidance”, and “athletics” highly, whereas females rated “family” and “worldliness” highly. Overall, those who were low self-monitors, or were shy rated saliency low.

Keywords: daily communication, saliency rating, shyness, self-monitoring, topics

Appendix 1 改訂セルフ・モニタリング尺度の因子分析結果

項目	感受性	修正能力	共通性	
sm01 ある場面で何が求められているかに気がつけば、それに 応じて自分の行動を変えていくことができる	.27	<b>.54</b>	.36	
sm02 人の目を見てその人の本当の気持ちを正確に読み取る ことができる	<b>.62</b>	.23	.44	
sm03 他の人に与えたいと思う印象どおりに、つき合い方を調 節していく能力がある	.36	<b>.45</b>	.33	
sm04 会話をしている時、一緒にいる人のごく微妙な表情の変 化にも敏感である	<b>.55</b>	.20	.34	
sm05 他の人の気持ちや望んでいることを理解しようとする時、 私の直感によくあたる	<b>.73</b>	.18	.57	
sm06 他の人が趣味のよくない冗談だと思いながらも楽しそう に笑っていたら、私はそれを見ぬくことができる	<b>.64</b>	.09	.41	
sm07 自分の思っていることが相手に伝わっていないとわかっ た時、伝わるようにそれをすぐ変えることができる	.31	<b>.36</b>	.23	
sm08 何か適切でないことを言ってしまった時、相手の目を見 てそのことをだいたい見分けることができる	<b>.57</b>	.21	.37	
sm09 <sup>a)</sup> いろいろな人や場面に合わせて、自分の行動を変えて いくことは苦手である	.17	<b>.57</b>	.35	
sm10 自分の置かれた場面で求められていることに適した行動 をとることができると思う	.14	<b>.63</b>	.42	
sm11 誰かが私に嘘をついても、その人の表情やしぐさからす ぐにわかる	<b>.60</b>	.02	.36	
sm12 <sup>a)</sup> 相手により態度を装うことができれば自分が有利にな るとわかっている、そうすることがなかなかできない	-.05	<b>.41</b>	.17	
sm13 その状況が何を求めているかがわかれば、それに合わ せて自分の行動を容易に調整していくことができる	.24	<b>.80</b>	.70	
	寄与 寄与率	2.72 20.90	2.33 17.95	5.05 38.85

註 n = 487.

<sup>a)</sup> 逆転項目(分析前に逆転処理済み).